

「第4期あきた文化振興ビジョン（素案）」に関する意見募集の結果について

「第4期あきた文化振興ビジョン（素案）」に関する御意見を募集した結果は次のとおりです。

多数の御意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

1 意見募集の期間

令和7年12月19日（金）～令和8年1月19日（月）

2 意見の状況

意見書の数：8通 / 具体的な意見の数：20件

3 お寄せいただいた御意見の概要と県の考え方・対応

番号	意見の概要	県の考え方・対応
1	ユネスコ登録された西馬音内の盆踊などを小中学生の授業の一環として、文化芸術を推進して行ってほしい。教育機関の役割として、次代の担い手育成につなげてほしい。	県教育委員会では、「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を本県教育の目指す姿として掲げており、今後も、ふるさとの恵まれた自然や文化等に触れたり、人々との触れ合いを深めたりする機会の充実を図ることを推奨するなど、ふるさと教育の一層の推進に努めてまいります。
2	藤田嗣治の壁画「秋田の行事」は、平野政吉財団の所蔵で藤田嗣治財団が運営するという県との二重行政になっているのが現状である。これを一元化し国宝にすることは考えられないか。	国指定文化財における「絵画」の多くは明治以前の作品が占めているのが現状ですが、近年では近代美術の評価も進んでおります。 国宝化へ向けた第一歩として、まずは重要文化財等の指定を受ける必要があり、このためには学術的な調査の蓄積や保存環境の厳格な管理が不可欠です。県といたしましては、所有者である財団と協力しながら、近代美術史における本作の希少性や価値を改めて整理し、専門的な調査や適切な保存管理の検討に努めてまいります。
3	全国の藤田嗣治ファンは多く、来年は県立美術館60周年、「秋田の行事」完成90年の節目の年でもあることから、東北6県においてインバウンドの少ない当県において、この宝を有効に活用することにより世界中から人を呼ぶことができると思う。	藤田嗣治の国際的な知名度は極めて高く、本県のインバウンド振興における強力なコンテンツであると認識しております。周年行事等の節目を捉え国内外の藤田ファンをターゲットとした戦略的な広報活動を強化し、「秋田の至宝」として、秋田の魅力を世界へ向けて力強く情報発信できるよう取り組んでまいります。
4	俳句団体の存続には若い世代の加入が不可欠である。団体としても大学生等に声をかけて会員になってもらっているほか、小学校からの俳句教室実施の依頼に対応しているが個別の取組で機会も少ない。小・中、高校に対して県から文芸（俳句又は短歌等）の魅力をなお一層発信してほしい。	小・中学校では、国語の授業を中心に俳句の表現に触れ、俳句の魅力の理解につながる授業が行われております。また、文化部活動地域移行推進事業の一環として、県の公式ウェブサイトにおいて、中学生の受入れが可能な各地域の俳句会等を紹介しております。 高等学校では、国語の授業を中心に俳句を教材として扱い、鑑賞したり表現したりする活動をとおして、文芸への興味・関心を高めることに取り組んでおります。また、秋田県高等学校文化連盟文芸部会では、全県の文芸部員が一堂に会する文芸セミナーで研鑽を積むとともに、各校において、様々なコンクール・講習会への参加を行い、積極的に活動しています。 小学生以上を対象に県芸術文化協会が主催する「短詩型文芸大会」や、16歳以上を対象に県が主催する「あきたの文芸」についても、より一層周知を図り、児童・生徒の積極的な参加を呼びかけるとともに、受賞作品集のウェブ掲載・配布などにより、今後も文芸の魅力の発信に取り組んでまいります。
5	秋田県は国指定重要無形民俗文化財が日本一多い文化県でありながら、その文化を活かすことなく、その価値に着目してこなかったことから消滅や衰退の一途となっている。文化継承のためのシニアと若者のマッチングはシニアのやりがいと若者の地元意識の高揚に繋がるだけでなく、体験型観光の仕組みを作ることで経済効果を生み出すはずである。県内各地にある番楽や祭事等を継承するために、高齢者と若者をつなぐ県独自のシステムを検討してほしい。	シニアと若者の交流による文化の継承や体験型観光への活用は、施策3「文化の継承と次代を担う人材の育成」の方向性に沿った重要な視点と考えております。民俗文化財をはじめとする文化財が所在する市町村等と連携を密にし、各保護団体等の現状を定期的に把握するとともに、担い手育成につながる事業の実施に努めてまいります。

番号	意見の概要	県の考え方・対応
6	<p>吹奏楽やアート、落語やパフォーマー等個人の技術を磨いても披露する機会が少なくその先に繋がっていない。若者や高齢者も文化を感じ楽しみたいはずで、気楽に見る場所を県主導で作ってほしい。そこに行けば新たな仲間ができ、スキルを発揮できる仕組みづくりである。若者が気楽に足を運べて夜はアルコールも楽しめ、いつでもそこで何かが行われており、ふらっと遊びにいける雰囲気づくりの発信を行う。様々な文化交流拠点を創出することで若者の地元意識高揚や秋田で暮らす魅力になる。アーティストが目的意識を持つことはスキルアップや県自体のレベルアップにも繋がる。秋田市内の、現在使われていないビルやテナント等の一部をリノベーション施工することによりイニシャルコストを抑えた施設整備が可能である。</p>	<p>若者が交流できる場の創出は、地域の活性化や若者定着の観点からも重要と認識しております。文化芸術活動を行う団体や個人が気軽に発表し、県民が文化芸術に触れる機会を創出するため、秋田駅前のフォンテAKITA 6階に「あきた文化交流発信センター（ふれあーるAKITA）」を開設しています。ステージイベントや各種作品の展示など、昨年度は132件のイベントを実施しております。また、令和4年に開館した「あきた芸術劇場ミルハス」は、公演開催時のみならず、若い方々が日常的に集う場となっております。今後も、幅広い世代の方々が気軽に文化芸術に触れられる場を創出していきます。</p>
7	<p>秋田市には国際教養大学や秋田公立美術大学があっても行政との関わりが希薄である。例えば、路線バス・観光バスのデザインを公立美大からコンペで募集しラッピングすることで、学生の自信に繋がり、地元意識の高揚になる。行政のサポートから見えない心の縛りのようなものが生まれ、秋田は単に収入が低いだけではなく本当の豊かさは文化の豊かさでもあることを周知することで若者の県外流出を防ぐ力になる。</p>	<p>施策3の若手アーティスト等の育成と活動を支える基盤づくりにおいて、若者が地域の魅力や文化的な豊かさを再認識しながら、感性や発想、技能をいかした表現・創作活動により地域に新たな価値を生み出す取組を支援することともに、その過程の情報発信に取り組むこととしております。学生等の自信や地元意識の向上に繋がる視点にも留意し、県内各大学にも積極的な参加や協力を呼びかけ、若者の活躍の場づくりに努めてまいります。</p>
8	<p>文化教育は、生徒に関わらず大人にとっても指導者の力量が大きく影響することから、経験を積んだ指導者の知見を発揮できる仕組みが重要である。「文化を大事にする秋田県」というイメージは、若者への魅力発信に繋がるほか、観光インバウンドの大きな商材となり、首都圏災害を回避したいと感じているリタイア組の移住先としての候補地にもなり得ることから、魅力発信に力を入れてほしい。</p>	<p>学校や地域における文化芸術活動の充実に向けて経験豊かな指導者の参画を促すとともに、県民が文化芸術の果たす役割や秋田の魅力や魅力を再認識し、更なる磨き上げにつなげていけるよう、動画投稿サイトやSNSを活用した情報発信の強化を図ります。併せて、地域に根ざした特色ある文化をテーマに、若い世代の視点や感性をいかして制作する映像作品の活用などにより、様々なアプローチから県内外の対象者に訴求し、若者の定着や誘客につなげてまいります。</p>
9	<p>文化振興は、県民が秋田の魅力を発見し、文化芸術活動に参加することによって、自ら秋田の文化を楽しむとともに、広く国内外に発信して交流を拡大する重要な取組である。取組として、菅江真澄の著作を活用することを提案する。秋田の風土や民俗に根差した菅江真澄の記録は貴重な遺産である。県立博物館などが公開する著作を、学校教育でも取り上げるなど、目にする機会を増やすことにより、多くの県民が秋田の良さに気づく。さらに民俗などについて英語で発信して国際交流を進展させたいと思う。また、菅江真澄が描いた図絵と記録した伝承や民謡などは現代の映像、舞台芸術ともマッチする。感性豊かな人材が文化芸術活動を行い、秋田が発展していくことを期待する。</p>	<p>より多くの方が菅江真澄の著作に触れ、秋田の歴史や民俗への理解を深める機会を得られるよう、県立博物館の「菅江真澄資料センター」を拠点に、貴重な自筆本等の保存・公開はもとより、様々な切り口から真澄の業績を紹介する展示や学習講座に取り組み、多角的な普及啓発を推進しています。特に、児童生徒を対象とした「セカンドスクールの利用」での活用や、インターネットによる情報発信に注力しています。また、県立近代美術館の特別展において、現代アートの視点から真澄の著作を取り上げた事例のように、その創造性を現代的な文脈で再解釈し、発信していく試みも極めて有意義であると考えております。今後も、これまでの取組を継続するとともに、多様な視点から菅江真澄の魅力を伝えてまいります。</p>
10	<p>基本目標のテーマは、重要ではあるものの、長年踏襲されてきた普遍的な内容であり、時代の変化に対応する新鮮味に欠ける印象を拭きません。これまでの県の文化施策は、主に県民を対象とした「内向き」なものが中心であり、本県の情報発信力の弱さや、インバウンド誘客の伸び悩みの一因ではないか。急激な人口減少に直面する本県において今最も重視すべきは、外部からの「誘客力」の強化ではないか。秋田でしか見られない、秋田でしか体験できない、独自の文化資源を政策の核に据えるべきである。具体的には、ユネスコ無形文化遺産である「なまはげ」等の来訪神行事や、全国唯一の分布を誇る「人形道祖神」といった民俗文化は、秋田でしか出会えない希少価値の高い資源である。既存コンテンツの延長線上ではなく、全国一の文化資源を主役とした大胆な情報発信と、来訪者がその熱量と背景を深く体験できる拠点整備を望む。内向きの文化振興から、外の世界を惹きつけ地域経済を活性化させる「攻めの文化振興」への転換を提案する。</p>	<p>本県において「誘客力」の強化は重要であり、本ビジョンでも施策2「文化芸術活動による秋田の魅力の磨き上げ」において、対外的な発信と交流人口の拡大を重要施策として位置づけております。県外客やインバウンドの誘客を拡大していくためには、新たな切り口での取組が必要であり、県では、県内を拠点とする国内屈指の劇団と連携し、本県の民俗芸能をモチーフにした非言語型（ノンバーバル）で観客参加型のミュージカルを造成し、その公演を通じて誘客を図る取組も行っております。重要無形民俗文化財に指定されている「秋田の竿燈」、「花輪祭りの屋台行事」、「西馬音内の盆踊り」、「男鹿のナマハゲ」などに代表されるお祭りや行事は、国内外に誇るコンテンツであり、積極的な情報発信に取り組み、交流人口や関係人口の拡大に努めてまいります。</p>
11	<p>地域に伝わる歌舞伎踊り「岡本新内」を伝承するため、会員の減少や資金不足などの悩みを抱えながらも、20代から80代の会員皆で郷土芸能を守るため、日々強い信念を持って練習に励んでいる。もっとたくさんの場所で披露したいと思ってなかなか機会が得られず、予算も足りない。ミルハスのステージに上がることが夢である、叶えてほしい。</p>	<p>県芸術文化協会や市町村、市町村芸術文化団体等と連携し、様々な分野の文化芸術活動に取り組む団体や個人の発表機会を確保するとともに、補助金等に関する情報の周知に努めてまいります。</p>

番号	意見の概要	県の考え方・対応
12	【参考】の例に「工芸」は含まれているか。	第1章の4「第4期ビジョンが対象とする文化の範囲」では主な分野を例示しているものであり、「工芸」も含まれます。
13	ミルハスの来場者数は、県外著名者公演への来場者数が占める割合が大きいと思う。ただエンターテインメントを消費するだけではない、県内公演者による本県の文化について理解が深まるような企画への来場者数を増やすことが大切である。	あきた芸術劇場ミルハスでは、著名なアーティストや楽団、劇団などによる公演、県内の文化芸術団体による公演、中高生・大学生の発表やコンクールなど、様々な活用が図られ、また、自主事業も行い、多くの方々に来場いただいております。今後も、本県の文化芸術の振興に資するよう取り組んでまいります。
14	若手アーティスト等への伴走支援事業では、展示作家や企画を手伝う方達がボランティアで関わっているような話を聞いている。支援の拡充を求める。	第3期ビジョンの期間中の若手アーティスト等伴走支援事業「アーツアーツサポートプログラム」では、アーティストを支えるディレクター業務やイベントの運営補助に興味がある事業参加希望者に対し、実践や体験の機会を提供することを目的としていたことから無償で実施していました。なお、当事業は令和6年度で終了しています。
15	トレンドを追ったSNS等での発信と同時に、アーカイブとして活動を記録し、後年いつでもどこからでも情報にアクセスできる環境を整えることも大切である。	これまでも県の事業や「あきた文化交流発信センター」でのステージイベントなどを中心に「ブンカDEゲンキチャンネル」に掲載しており、これまで以上に県内外の方々にも視聴してもらえるよう、発信を強化してまいります。
16	目標が人の数量のみでは、企画の質が伴わない場合が増えることを危惧する。	様々な取組を通じて文化芸術を体験できる環境を整え、誰もが文化芸術に親しむことのできる状態を目指すことから、鑑賞や参加機会の充実度を測る指標として設定しております。一方で、質的な面も重要な視点であると考えており、ビジョンの進行管理においては、目標の達成状況の確認と併せ、個別事業の有効性や効率性などについて、大学生等による調査を実施し、事業の磨き上げや見直しにつなげていくこととしております。
17	民俗芸能や伝統文化を後世に残す取組は、待ったなしの状況である。各地域に任せたままでは消失してしまうものも少なくない。これまでとはレベルの違う全县を網羅した総合的な支援が必要である。	御意見の趣旨は重要な視点と認識しており、本ビジョンにおいて、施策3「文化の継承と次代を担う人材の育成」の取組に位置づけ、民俗芸能団体を主とする用具修理等に対する補助を継続し、同時に、若い世代の育成につながる事業を推進してまいります。
18	県内文化芸術団体については、各団体の主体性に任せた活動には限界があるのではないか。各団体の高齢化を伺っている。取りまとめているのが、県芸術文化協会なのでしたら、その役割の重要性は益々増していくと思う。体制の拡充を求める。	県芸術文化協会を通じて各団体の実状やニーズの把握を進めており、ニーズに沿った支援のあり方を協議するとともに、県芸文協が実施する事業の成果の検証や見直しについて助言を行うことなどにより、県芸文協の機能強化を支援してまいります。
19	事業者の役割について「～期待されます」では何も変わらない。県が積極的に商工会などに働きかけて、事業者が関わる事例を作っていくほしい。	御意見の趣旨をビジョンに反映し、第6章ビジョンの推進体制「8事業者」を「文化芸術についての理解と関心を深め、メセナ活動等の社会貢献活動や文化事業への参画を通じて、地域の文化芸術活動への積極的な参加、協力が進むよう働きかけていきます。」と修正します。併せて、推進体制を構成するすべての主体に関する記述を能動的な表現に改めます。
20	県が言う文化芸術とは、その活動で利益を上げない人の活動のみを言うのか。文化芸術に関わる様々な層の人たちの活躍が、より地域を充実したものにしていこうと思う。文化振興と産業振興が連携を取るような施策が必要である。	文化芸術には様々な層の活躍があり、御意見の趣旨の文化振興と産業の連携は重要な視点であると認識しております。県では、文化芸術活動に取り組む若者の定着や、地域の新たな魅力の創出に向け、若手アーティスト等による地域に根ざした創作や表現活動の実践を支援することとしており、デザイン、工芸などの産業分野との連携や、事業終了後の接続を視野に入れ取組を進めてまいります。

4 お問合せ先
秋田県観光文化スポーツ部文化振興課
所在地 秋田市山王三丁目1-1
電話 018-860-1530
電子メール bunkashinkouka@pref.akita.lg.jp